



埼玉県美術展覧会で 3度の特選を受賞する実力者

島澤 洋子さん (57歳・犬塚)

毎年5月から6月にかけて開催されている県内最大の公募美術展「埼玉県美術展覧会」(以下、県展)。今年で64回目を迎えた県展で、応募総数4,022点の中から「書」の部門で最優秀賞に当たる県知事賞を受賞したが、島澤洋子さんという雅号で活動している島澤洋子さんです。

入選すら難しいといわれている県展で、島澤さんは過去に特選とされる県教育委員会教育長賞と県美術家協会賞を受賞。さらに昨年は、書道の公募展で最も権威がある四大書道展の一つ「毎日書道展」でも、最優秀に当たる毎日賞に輝きました。そんな実力の持ち主である島澤さんが、展覧会に出品するようになったのは、10年ほど前からでした。「自宅で書道教室を開き、子育てをしながら自分が培ってきた技術や書道の楽しさを生徒に教えてきました。そのころになると子育ても落ち着き、自分の書道に対するモチベーションを上



げると、10年ほど前から自宅で書道教室を開き、子育てをしながら自分が培ってきた技術や書道の楽しさを生徒に教えてきました。そのころになると子育ても落ち着き、自分の書道に対するモチベーションを上

げる良いきっかけになればという思いがありまし

「と挑戦を決意したときのことを語ります。書道教室で指導する傍ら、作品作りに励むようになった島澤さん。「展覧会で入選するためには、審査員はもちろん、全ての方の心を打つ効果的な表現方法を身に付けなければ」と改めて自分の書を見直すことにしました。限られた時間の中で集中して書き続けることにより、「紙を切るような鋭い線」や「効果的な余白の取り方」などの表現で、立体感のある作品作りを心掛けるようになっていったそうです。

今回県知事賞を受賞した作品「發潭州」は、構想から約3カ月をかけて完成させたもの。縦164センチメートル・横45センチメートルの書道紙に、40字の詩文がバランス良く書かれ、審査員からは「スケールが大きく、魅力的。書に対する情熱が伝わってくる格調の高い作品」と高い評価を受けました。島澤さんは「応募期限の2週間前まで納得のいくものが書けず、詩文自体を変えようと思ったくらい苦戦しました。まさか自分が県知事賞をいただくなんて信じられませんでしたよ」と受賞の知らせを受けたときのことを振り返ります。

「この賞を受賞したことで、逆にプレッシャーを感じていますが、これからも多くの方に書を楽しんでもらえるような作品作りを行っていきたいですね」とほほ笑みながら今後の活動について語る島澤さん。新たな可能性を信じて、これからも人々の心を打つ作品を次々と生み出していくことでしょう。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で
広報広聴課へご応募ください。

- | | | |
|------------------|-------|-------|
| 俳句 | 須加 | 須加かつ江 |
| 青空を飲み込む如く鯉鱈 | 前谷 | 町田 貞子 |
| 鳴き声のまだ未熟なる初音かな | 下忍 | 島崎 もと |
| 割りたての卵のやうに朴咲けり | 清水町 | 柳沢 紀子 |
| 罎広の帽子似合って帰省かな | 南河原 | 今村 文女 |
| 白さつき庭の一隅暮れ残る | 矢場 | 大谷 良一 |
| TPPの行方気になる青田道 | 佐間 | 須永 節子 |
| ゆく春を惜しみてすこし廻り道 | 富士見町 | 森 節子 |
| 隅田川水上バスに初夏の風 | 持田 | 大庭 光扇 |
| 車椅子押す我が手にも桜舞ふ | 門井町 | 嶋田 茂 |
| 葉の上の気高き白や蓮の花 | | |
| 城南 | 橋本千枝子 | |
| おしゃれして出掛けたくなる若葉風 | 中里 | 鯨 美智子 |
| 向日葵の生命力をいただきぬ | 城南 | 町田 達男 |
| 船頭のうた声のどか船下り | 柵田町 | 春田 枕流 |
| キラキラと鏡のごとく若葉萌え | 荒木 | 高澤よね子 |
| 気安さの同郷訛り茄子の花 | 柵田町 | 財津ミチエ |
| 躰きの多くなりけり八十の夏 | 城西 | 山下 利江 |
| いつまでも若く生きたし衣更 | 矢場 | 鈴木かつの |
| 手土産は布袋の中の柏餅 | 荒木 | 藤田 明枝 |
| ふるさとの詰まる宅配夏わらび | 忍 | 飯島 素子 |
| 齢重ねしみじみと汲む新茶かな | | |
| (三沢 一水 監修) | | |

はじめまして



平成25年9月生まれのお子さんを募集します

○7月1日(火)~31日(木)に電話またはEメールで
広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、8月5日(火)午後2時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成25年 7月生まれのおともだち ★★★



菊地 柳紗ちゃん(桜町)
平成25年7月18日生まれ
父・直哉さん 母・礼さん
「沢山笑って
元気に遊ぼう!」



栗原 颯汰ちゃん(持田)
平成25年7月31日生まれ
父・史佳さん 母・有佳さん
「美咲お姉ちゃん大好き!」



小林 礼ちゃん(谷郷)
平成25年7月18日生まれ
父・大介さん 母・忍さん
「いつも笑顔で!」



渡辺 結大ちゃん(谷郷)
平成25年7月30日生まれ
父・平さん 母・由紀絵さん
「爽太郎と共に
心を結ぶ子になれ!」



小田 剣ちゃん(谷郷)
平成25年7月10日生まれ
父・和成さん 母・まゆみさん
「生まれてきてくれて
ありがとう!」



高野 凜太郎ちゃん(西新町)
平成25年7月7日生まれ
父・浩太郎さん 母・暁子さん
「僕の笑顔でみんな幸せ!」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

株式会社スイデンオカモトブロー

経済発展を支える送風機



大正13年に岡本機械製作所として創業した同社は、金属の精錬・加工に用いるための送風機を開発。特許を取得し、送風機メーカーとしての歩みを始めました。そして、平成16年には環境機器メーカーである株式会社スイデンのグループに加わり、株式会社スイデンオカモトブローとして新たなスタートを切りました。

同社の主力製品は、工場内の空気を循環させる送風機。確かな技術と豊富な知識で、電力会社や食品会社などさまざまな分野から依頼を受けるようになりました。その中でも、パンや菓子製造するメーカーからの依頼が増えているそうです。

業務用オーブンでパンや菓子を焼き上げるには、熱風を均一に循環させる送風機がとても重要な役割を果たします。そこで、同社の送風機の技術が高く評価され、おいしいパンや菓子づくりに大きく貢献しているのです。

また、同社の最大の特徴は、単品受注体制で製造していることです。顧客の要望を最大限に反映することで、用途に最も適した製品を作ることができ、副工場長の上田さん

「は、単品受注による製品は、大量生産で作った製品よりも割高で、手間も時間も掛かります。それでも、お客さまが本当に納得していただける製品を提供することが私たちのポリシーなのです」と語ります。

さらに、同社の製品は「耐久性」に非常に優れており、顧客から厚い信頼を得ています。送風機は、高温多湿や粉じんが舞い上がる環境の中でも使用されるため、過酷な環境にも耐えうるものでなければなりません。使用される環境を調査し、一つ一つ丁寧に、入念なチェックを重ねながら作った製品は、故障することがほとんどなく、部品交換などのメンテナンスを行うことが長く使うことができるそうです。

「日常生活で送風機を目にするのではないと思いますが、産業活動を行う上で送風機の役割はとても重要です。これからも新しい技術を積極的に取り入れ、日本経済の発展に貢献できる企業を目指し、努力していきます」と上田さんは力強く語ります。

会社プロフィール

代表取締役社長 廣見 好春

【事業内容】産業用送風機・空気関係機械の製造販売

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。